



# 新年のご挨拶

## 国土交通省 大臣官房審議官



令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

新年早々発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。国土交通省としても被災地の復興・復興に全力を挙げて対応して参ります。

一般社団法人日本植木協会並びに会員の皆様におかれましては、平素より公

園・緑化関連行政にご支援、ご協力を賜っていることと、厚く御礼申し上げます。

昨年7月のG7香川・高松都市大臣会合では、これらの諸課題の解決に向けて、都市の緑地の重要性について、欧米諸国と認識を共有しコミュニケーションが盛んに行われました。このような背景を踏まえ、国土交通省では、まちづくりGXと国際的枠組みを進める流れが加速しています。また、人々が経済的・社会的にも健康な状態を指すWell-beingの取り組みも浸透してきています。

# 新年のご挨拶

## ネイチャーポジティブの実現に向けて



## 環境省 自然環境局長

## 白石 隆夫

令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。能登半島地震で被災された方々心よりお見舞い申し上げます。一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、平素より、自然を中心とする環境行政の推進にご理解、ご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度は、「ネイチャーポジティブ元年」と言える年でした。

2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)で世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されたことも踏まえ、我が国では「生物多様性国家戦略2022-2030」

を昨年3月に策定し、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる、いわゆるネイチャーポジティブ(自然再生)の表現に向けて動き出した。

そのような中、今、特に力を入れているのが、企業など民間主体による自主的な取組の促進です。そのた

め、環境省では民間等の取組によって生物多様性が保全されている場所を「自然共生サイト」として認定する仕組みを昨年4月から開始しました。企業を中心とした関連するインセンティブの検討も進めてまいります。さらに、生物多様性の保全上効果的な場所や、各者の活動状況等が可視化できるような、生物多様性を見える化するシステムの開発を進めてまいります。

その他、ネイチャーポジティブに向けた取組は、企業にとつて、新たな成長につながることを示し、その実践を促すものとして、ネイチャーポジティブの実現に資する経済への移行に向

した。今年から、会場整備が本格化する予定であり、本博覧会の成功に向けた準備により一層取り組んでまいりますので、博覧会への提案等を含め、ご協力を頂きますようお願いいたします。

また、全国都市緑化かわさきフェア「Green For All KAWASAKI 2024」は、会期を秋と春の2期に分けて計53日間開催されます。川崎市制100周年を迎える次の100年に向けて、次世代に向けて考え行動すること、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつなげていくことを目指して、富士見公園・等々力緑地・生田緑地の3公園をメイン会場として開催されます。加えて、ことも大綱に基づき、全体的にも、若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こともまんなか社会」の実現に向けて、ごどもための近隣地域の生活空間を形成する「ごどもまんなかまちづくり」を加速化し、ごどもの遊び場とそのアクセスの確保や地域住民等との交流機会を生み出す空間の創出を推進します。樹々の緑あふれる都市公園が、身近な遊び場の確保に貢献できるよう、施策の展開に努めます。

このように緑豊かなまちづくりに向けた施策展開が、貴協会の益々の充実・発展に寄与していくことを期待するとともに、会員各位の益々のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

に幸福な生活を送ることができる「ごどもまんなか社会」の実現に向けて、ごどもための近隣地域の生活空間を形成する「ごどもまんなかまちづくり」を加速化し、ごどもの遊び場とそのアクセスの確保や地域住民等との交流機会を生み出す空間の創出を推進します。樹々の緑あふれる都市公園が、身近な遊び場の確保に貢献できるよう、施策の展開に努めます。

このように緑豊かなまちづくりに向けた施策展開が、貴協会の益々の充実・発展に寄与していくことを期待するとともに、会員各位の益々のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

また、全国都市緑化かわさきフェア「Green For All KAWASAKI 2024」は、会期を秋と春の2期に分けて計53日間開催されます。川崎市制100周年を迎える次の100年に向けて、次世代に向けて考え行動すること、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつなげていくことを目指して、富士見公園・等々力緑地・生田緑地の3公園をメイン会場として開催されます。加えて、ことも大綱に基づき、全体的にも、若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることが

できる「ごどもまんなか社会」の実現に向けて、ごどもための近隣地域の生活空間を形成する「ごどもまんなかまちづくり」を加速化し、ごどもの遊び場とそのアクセスの確保や地域住民等との交流機会を生み出す空間の創出を推進します。樹々の緑あふれる都市公園が、身近な遊び場の確保に貢献できるよう、施策の展開に努めます。

このように緑豊かなまちづくりに向けた施策展開が、貴協会の益々の充実・発展に寄与していくことを期待するとともに、会員各位の益々のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

また、全国都市緑化かわさきフェア「Green For All KAWASAKI 2024」は、会期を秋と春の2期に分けて計53日間開催されます。川崎市制100周年を迎える次の100年に向けて、次世代に向けて考え行動すること、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつなげていくことを目指して、富士見公園・等々力緑地・生田緑地の3公園をメイン会場として開催されます。加えて、ことも大綱に基づき、全体的にも、若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることが

# 青年部会 令和5年度全国研修会報告書

青年部会 事業委員長 田宮 慎二(南田宮園芸・鳥取県)



植栽が多い新国立競技場にて集合写真

令和5年9月14日(木)に東京都の新国立競技場、東京リンピックに合わせて再開の植栽見学を行いました。5月にコロナも5類に移行され、東京2020



屋形船での懇親会の様子

このように、コロナ禍の会員が参加していただくことが嬉しかったです。懇親会では屋形船という限られた空間で、夜景を見ながら会話を弾みました。次回は、地方での開催も検討していきたいです。

まずは新国立競技場と周辺の植栽見学は、東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場は限研吾によるデザインで、周辺との調和を目指した「杜のスタジアム」のコンセプトを掲げ「自然に開かれた日本らしいスタジアム」を提案されていた。集合写真を撮った後、各自で競技場周辺の植栽の見学をしました。大勢の方が5階の「空の杜」の通路沿いの植栽スポットを見学しました。その後、バスガイドさんに迎賓館・レインボーブリッジ・東京ゲートブリッジ・豊洲・選手村跡地など様々な場所を説明して頂きながら植栽見学しました。東京は緑が多く、斬新な植栽を見ることが出来、勉強になりました。



夢の島熱帯植物館



空の杜の通路沿いの植栽見学(新国立競技場)

最後は、屋形船で懇親会が開催されました。1台の船で100名全員が座れ、ビューポイントでは開放感溢れる大きな窓や屋上デッキから東京の夜景を楽しみながら交流を深めることが出来ました。

### 年頭の辞

#### 植木の新たな需要開拓に向けて



農林水産省 農産局長

平 形 雄 策

新春を迎えるに当たり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

初めに、本年1月1日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被害に遭われた全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、植木の生産技術の向上及び緑化推進活動の普及啓発等を通じ、安定的な花き生産及び花き文化の振興にご貢献いただき、心より感謝申し上げます。

一昨年以来、サプライチェーンの混乱による石油

もある中で、市場拡大に向けた取組が一步ずつ進んでいると思っております。特に、植木は令和4年の花き輸出の7割以上を占める主力品目であり、貴協会が(一社)全国花き輸出拡大協議会のメンバーとしてご尽力いただいていること、大変心強く思っております。

農林水産省としても、政府の輸出目標である2030年に5兆円を達成するため、引き続き輸出拡大にしっかりと取り組んでいく方針であり、品目団体輸出力強化緊急支援事業などの支援策を準備しています。貴協会の皆様には世界各地の市場拡大に向けて効果的にご活用

用いただきたいと考えています。特に、昨年10月からカタール国で、2023年ドール国際園芸博覧会が開催されていますが、中東地域は、市場としてポテンシャルが大きい一方で、日本花きや花き文化の認知度が低いという課題があります。

カタールをはじめ周辺国から多くの来場者が見込める本博覧会は、日本花きをPRする絶好の機会であり、貴協会の皆様にもご協力をお願いいたします。

また、国内市場については、3年後には、いよいよ

よ横浜で「GREEN X EXPO 2027」が開催されます。国際園芸博覧会は経済的に大きな影響力をもつ国家的な一大イベントであり、本博覧会の成功は間違いなく花き産業の大きな飛躍の契機となります。

昨年1月に基本計画が公表され、着々と準備が進められており、9月には俳優の芦田愛菜さんが公式アンバサダーに就任されました。さらに、10月には博覧会会場に植栽される植物調達のパートナーに、貴協会が担当いただくこととなりました。高品質な植物を安定的かつ大量に確保することは、本博覧会成功の鍵の

一つです。また、本年3月には博覧会の出展に関する募集が開始される予定であると聞いております。貴協会の皆様にも本博覧会を牽引する立場として、業界を挙げた出展に向けて本格的な検討を進めていただきたいと考えています。本博覧会の成功に向けて、農林水産省としても、省を挙げて全力で準備に取り掛かってまいりますので、貴協会の皆様にも一層のご協力をお願いいたします。

結びに、本年が皆様方にとって、美り多き年となりますことを心より祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

現在、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標である

SDGsが社会全体の課題として取り組まれていまして、その17の目標のうち、間接的なものも含めれば、12の目標において環境緑化が深く関係しています。特に2022年の生物多様性条約COP15において採択された昆明・モントリオール生物多様性枠組では、2030年のネイチャーポジティブ(自然再興)実現のため陸域・海域のそれぞれ30%を「生物多様性の保全が図られている区域」として保護することとした、いわゆる30 by 30が目標とされており、正に環境緑化は対策の重要な柱となる取り組みです。

「環境緑化」という言葉には長い歴史があるものの、現在では今日的課題として

### 新年のご挨拶

#### 環境緑化のさらなる推進に向けて



一般財団法人 日本緑化センター 会長

加 来 正 年

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人日本植木協会会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より当センターの事業活動に対して格段のご理解・ご協力を賜っておりまして、誠にありがとうございます。

能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

昨年、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、引き続き感染症対策を実施しつつも、通常の経済活動が再開されました。当センターにおいても、関係者の皆様方のご理解・ご協力に

より、新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、所管する樹木医、松保護士、自然再生士の3つの資格について、認定試験を滞りなく実施し、新たな技術者を登録することができました。その際、コロナ禍に対応するため、3年間にわたって研修の座学をWebによって実施してきたところでありますが、この新たな試みは、樹木医研修においては研修による拘束期間が1週間とか

つての1/2に短縮されたことなどにより、研修受講生、特に女性の研修受講生に大変好評であり、有効な研修方法であることが確認できました。そうした結果を受けて、今後とも研修受講生を含めた関係者からのご意見を十分に踏まえつつWebを活用した研修を実施してまいります。

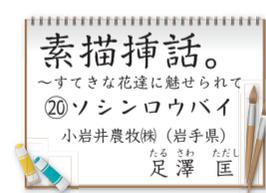
また、工場緑化全国大会は、関係者の皆様方のご理解・ご協力により、今年も昨年引き続き1月に開催する運びとなりました。工夫を凝らした素晴らしい工場緑化の取り組みについて、全国から多数の応募があり、工場緑化全国大会において「全国みどりの工場大賞」として表彰を行うこととしております。今年も引き続きごうした民間企業によ

る緑化を促進する取り組みを進めてまいります。さらには、一昨年、一般の方々の身近な緑に対する関心の高まりや、樹木医等の技術者の更なるスキルアップの要請に心えるため、進士五十八東京農業大学名誉教授を学長にお迎えして、「グリーンエッセイショナルアカデミー」というオンラインによる緑に関する総合的な講座を開講しました。開講に当たってはまず20講座から始めましたが現在31講座まで拡大して保護することとした、いわゆる30 by 30が目標とされており、正に環境緑化は対策の重要な柱となる取り組みです。

「環境緑化」という言葉には長い歴史があるものの、現在では今日的課題として

ものが求められており、その重要性はますます高まっています。社会がより成熟化する中、こうした環境緑化に関する取り組みを総合的に推進するためには、多くの関係団体が連携を図りながら、着実に成果を上げていくことが必要です。とりわけ、当センターと関係の深い貴協会とは、これまで協力して様々な取り組みを行なってきており、引き続き緊密に連携を図りつつ緑に対する多様な社会的ニーズに対応した事業活動を進めてまいりたいと考えております。

結びに、本年が貴協会及び会員の皆様にとって美り多き年となりますことを心より祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



「ロウバイ *Chimonanthus praecox*」は、中国原産の落葉中低木で、強い芳香がある花を冬に咲かせてくれます。和名に「バイ(梅)」が付いていますが、ウメの仲間では無く、ロウバイ科ロウバイ属です。しかし、ウメの品種には存在しない、黄色の花を咲かせてくれるために、日本各地にある「梅園」には、ウメとの対比のために植えられることがあり、彩りを補完してくれています。属名の「*Chimonanthus*」は、「冬(*cheimon*)」+「花(*anthos*)」が語源だそうです。種名の「*praecox*」は、「早咲き」の意味があります。確かに、ロウバイは1~2月に花を咲かせるので、このような学名が宛がわれたのだと思います。しかし、ロウバイの最大の特徴は強い香りがあることだと思います。なぜその特徴を学名に付けてもらえなかったのか? 不思議に思うのは私だけでしょうか? この花のスケッチを描いた時も、甘い香りが辺りに漂い、とても素晴らしい時間を過ごしました。香りをスケッチに付けることが出来ないか、と本気で思うほどでした。また、和名である「ロウバイ(蠟梅)」の語源になっている、蠟細工のようなツヤのある花被片(かひへん)の特徴も学名には表現されていないのも不思議です。(ロウバイの場合、花弁と萼の区別がつかないので、花弁ではなく、花被片と呼ぶのが正しいそうです)



このスケッチは、「ソシンロウバイ *C. praecox* f. *concolor*」です。ロウバイは花の中心部にある花被片が暗紫色に染まっているのですが、ソシンロウバイは花全体の花被片が黄色一色になっていて、楚々とした美しさがあります。「ソシン」は「素心」で、「素(ありのまま)」+「心(物の中心の部分)」で、品種名の「*concolor*」も「単色の」であることを表しています。また、花形が丸く、黄色が濃い「満月ロウバイ」が流通していますが、多くは実生繁殖しているために、花形が固定されず、いろいろなタイプが流通していることは、問題ではないでしょうか? さらに、問題と言え、ロウバイの種子や葉にアルカロイドが含まれているために、必要以上に「有毒植物扱い」されてしまうことが問題であると考えます。確かに口に入れてしまえば、危険になると思いますが、そうそう口に入れることはないと思うのですが・・・。

### 青年部会総会

開催日 令和6年2月8日(木)  
会場 オリエンタルホテル福岡博多ステーション

# （一社）日本植木協会 令和六年度通常総会 歓迎 新年のご挨拶・中国・四国ブロック

## 中国・四国ブロック長

### 内山 淳

(株)山都屋(岡山県)

新年あけましておめでとうございます。本年が（一社）日本植木協会会員の皆様にとって、飛躍の年になりますようご祈念申し上げます。

本年1月25日広島市において（一社）日本植木協会令和六年度通常総会が開催されます。昨年5月にG7サミットが開催された広島は、緑豊かな中国山地と、静かで波平らかな瀬戸内海



## 令和六年度通常総会

園の会員が植木の生産・流通販売などにたずさわっています。年々会員が減少する中、ブロック会議や総会後に交流会を開いて懇親をはかりながら細々とブロック活動をしています。また、本総会の記念講演では2017年にオーストラリアから広島に巨大なバオバブの移植プロジェクトを手掛けられるなどグローバルにご活躍されている四代目金岡又右衛門氏による講演も予定されています。

## 広島県支部長

### 倉本 政信

(株)伯松園

新年あけましておめでとうございます。私たちも新たな一年を迎えることができ、心より感謝申し上げます。いつもはチャットGPに文章を考えてもらっていますが、この度は自分の力で書かせていただきます。

先日12月中旬に、弊社園場にてハウスメーカーのデザイナーを対象に「植栽材料選定についてのポイント」をテーマとした樹木の勉強会を開催しました（参加人数は30名）。参加者の話を聞く所によると、デザイナーは平面図の上に樹木配置の○を書くのは得意だけれど、実際にどの樹木を選んだら良いのかわからない

が吹いていると思います。

中国・四国ブロックは、交流会や研修会・イベントの提供、情報提供・情報発信、行政・地域への提言など積極的に実施して各方面に植木の魅力を伝えていきたいと考えています。そのためにも会員の知識や技能の向上に努めてまいります。

今後の中国・四国ブロックの活動にご理解いただき、結びとなりましたが皆様ご家族様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

提案すると、始めは流行りのアオダモを求めていても、結局は皆さんが本当に求めている木はアオダモでなくても良かったのです。

この勉強会を通じて、お客様が持つイメージをしっかりと聞き取り、本当に求めている植木を提供することの大切さを再認識する機会となりました。

最後になりますが、日本植木協会と会員皆様の輝かしい未来とご多幸を心よりお祈り申し上げます。共に実りの多い一年にしましょう！

こちらへの質問についても「建物の壁際に植えることが多いので根鉢の小さい植木を教えてください」「坪庭に植える樹木のオアシスは？」「傾けて植えたいが不自然に感じるのをどうしたらよいか」など求めているものは人それぞれで違うものです。植栽の位置やイメージを細かく聞き取り用途や特性に合わせた植木を

## 鳥取県支部長

### 田宮 慎一

(有)田宮園芸

新年あけましておめでとうございます。

約3年間にも及ぶコロナ禍を経てようやく明るい兆しが見えて参りました。明るい話題の一方で昨秋から導入されたインボイス制度や、物価高による資材等の高騰など頭の痛い問題も多く、造園業界や弊社のような樹木生産・卸業界にも暗い影を落としております。

相変わらず公共工事等は減少傾向ですが、ここ数年は、個人邸での需要が増えています。コロナ禍での外出制限の中、家で過ごす時間が多くなり、そこに癒しと安らぎが求められているのではないのでしょうか。人々の暮らしをより一層豊かなものにする為に、庭、その空間を彩る植物たちが重要な役割を



(株)渡辺造園



倉見苗圃



(有)竹本園



(有)田宮園芸

## 島根県支部長

### 櫻井 太

(有)櫻井エンタープライズ

新年明けましておめでとうございます。

徐々に収束傾向にあり、活動がしやすくなってきましたが、依然として物流費や資材費の高騰が続く厳しい状況が続いています。この難局を克服すべく、我々は情報を集め、試行錯誤を重ねています。

田舎に住む者として情報収集が難しい中、植木協会で知り合った仲間が絶えず情報を共有してくれているおかげで、困難に立ち向かう力をいただいております。



果たす事は間違いないでしょう。

顧客のニーズも時代により変化致しますが、今後も日本植木協会の皆様の益々のご発展をお祈りいたします。本年も宜しく願い致します。

## 徳島県支部長

### 高橋 誠

(株)高橋魁春園

新年あけましておめでとうございます。本年が植木協会の皆様にとって良い年でありますように。

支部活動を報告したい所ですが、徳島県の協会員は今年度から当社だけに なってしまいましたので、徳島の現状を話したいと思っております。



新型コロナウイルスは五類になり、コロナ前と同じような行動出来る様になりましたが、今世界的な物価高の流れは我々の業界、また徳島においてもかなり影響が出てきています。戸建ての販売価格が、約3〜4割ほど上昇しているのが現状で着工件数も減少傾向で、公共工事においても管理はありますが、樹木を植える仕事は皆無です。

そんな逆境ではありますが、徳島という温暖な気候

この2年で10万人を超える方にフォローして頂きました。なぜ発信活動に力を入れようと思ったかと言っと、新型コロナウィルスがきっかけです。日本だけでなく世界中が



(有)浅中錦松園

閉塞感でいっぱいだった頃、我々の業界もその影響を受けだしてしま...

愛媛県支部長

丹下 貴啓

(株)瀬戸内園芸センター

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

このようなコロナ禍であつた中で、弊社においては、既存事業を継続して...

愛媛県の支部メンバーは、現在(株)大西屋様、(有)山緑化センター様、弊社の3社となっております。



OLIE CAFE



OLIE CAFE

今後、瀬戸内海しまなみ地域と共に発展できるような事業展開を行いたいと考えております。

高知県支部長

恒石 昌夫

(株)岡宗農園

新年あけましておめでとうございます。本年がますますよい祈念申し上げます。



島井植物センター

さて、昨年は高知県出身の植物学者、牧野富太郎博士をモデルにした小説「らんまん」が放送されました。

たこともあり、県内外から多くの観光客が訪れ、牧野植物園や北川村のモネの庭など、県内各地の観光地は大変賑やかになりました。



(株)岡宗農園

各地で開催された総会・研修会

北海道・東北ブロック

令和5年度通常総会と研修会

(旧)ブロック長 安瀬 信一

(有)舟引植産・福島県



ブロック総会風景



母畑温泉八幡屋 渡辺社長

報告事項の中で真鍋理事より協会の現状、今後の方針と協会の財務状況の報告を受け、役員より建設的関連な意見の交換やアドバイスがなされ、次期も継続出向理事を担う真鍋的なる方向作りにつ



(有)仲田種苗園視察研修

会員動向

新入会正会員

▷(新) そよかぜグリーン(株) 山崎 隆弘 〒278-0012 千葉県野田市瀬戸1074 電話 0471-38-6740 FAX 0471-38-6745

新入会賛助会員

▷(新) (株)サンホープ 益満 ひろみ 〒153-0061 東京都目黒区 中目黒1-1-71 KN代官山4F 電話 03-3710-5675 FAX 03-3791-7119

代表者・メールアドレス変更

▷(新) 大久保吉広 (旧) 大久保利一 info@garden-s.co.jp (有)猿島ガーデン (茨城県)

代表者変更

▷(新) 永井 慎隆 (旧) 永井 康之 (有)永緑園 (愛知県)

▷(新) 深作 国雄 (旧) 深作 忠 深作樹販(株) (茨城県)

担当者変更

▷(新) 川村 和泉 (旧) 田村 政則 (有)田村山林緑化農園 (秋田県)

住所変更

▷(新) (有)水間緑販 〒893-1103 鹿児島県鹿屋市吾平町麓3563-1

退会

▷(有)桜木園 (埼玉県)

▷大宮造園企画 (千葉県)

▷(株)河野グリーン (千葉県)

▷(有)伊藤植木園 (愛知県)

▷大西農園種苗場 (和歌山県)

訃報

▷永井 金美 様 (永井康之氏のご母堂様) (有)永緑園 (愛知県) 令和5年10月27日 享年92歳



講演会場

新ブロック長に城垣章、副ブロック長に神奈川農支部の飯島裕之と群馬県支部の滝沢政己が選出された。

関東・甲信越ブロック

令和5年度関東甲信越ブロック総会

ブロック長 城垣 章

(有)大門植産園・埼玉県

本年度のブロック総会は、10月24日(火)栃木県宇都宮市のホテルマイステイズ宇都宮にて、ブロック会員69名が出席して開催された。

城垣章副ブロック長、佐久定規本協会会長の挨拶後、宇賀神朋の司会進行により議事に入る。議長に木村信、副議長に山崎雄造が指名され、各議事が慎重審議のうえ全て承認された。

新ブロック長に城垣章、副ブロック長に神奈川農支部の飯島裕之と群馬県支部の滝沢政己が選出された。

記念講演は、防衛大学校名誉教授、渡邊啓二氏を迎え「路外車両に関する先端技術の動向」を主題に開催された。



防衛大学校名誉教授 渡邊啓二氏

### 中部ブロック

#### 令和6年度通常総会開催

ブロック長 赤塚 正基  
(赤塚花木園・三重県)



小畑ブロック長(旧)



#### 中部ブロック研修会報告

(旧)ブロック長 小畑 勝裕  
(有)仲松園・静岡県

本年度のブロック研修会は、研修会の起点をJR東は、令和5年6月6日(火)7日(水)さいたま市において視察研修会を開催しました。今回の研修会は、埼玉県支部の企画から協力していただき実現しました。内容は最初に埼玉スタジアムを訪れ、施設内部の詳細な説明を聞きながら、特別にVIP席や控室なども見ることができました。当初は盆栽美術館の視察を予定していましたが、臨時休館日となり急遽埼玉支部会員の尽力で視察が実現できました。



集合写真

その後、染谷花菖蒲園を訪れ、続いて染谷植物園さんの圃場視察を行い、初日の予定は終了しました。夜は大宮駅近くの飲食店にて、埼玉県支部より3名をお招きして中部ブロック会員の交流会を行い活発な情報交換の場となりました。2日目も好天に恵まれ、バスでさいたま市見沼区方面に向かいました。住宅地と農地が混在する静かな環境で大都市の喧騒を離れて落ち着いた雰囲気です。グリーンファーム・アンドウさんとグリーンシクラさんの圃場を視察しました。二日間の短い時間でしたが訪れた圃場はどれもきれ

### 関西ブロック

#### 令和5年度関西ブロック通常総会

ブロック長 中西 誠  
(株)中西園材・滋賀県

定数会員65名出席者38名委任状27名合計65名。総会は成立となり、審議事項として、第1号議案令和5年度事業報告、第2号議案令和5年度収支決算報告及び監査報告、第3号議案令和6年度7年度役員(案)、第4号議案令和6年度事業計画(案)、第5号議案令和6年度収支予算(案)が上程され、すべて満場一致で承認されました。その後、報告事項の説明があり、全国総会の案内後閉会となりました。

11月28日にガーデンシティークラブ大阪で17名の出席者のものを行いました。主な議題として役員候補者の選出を幅広く会員から選出することができるよう規約改定(案)について提議しました。会員数の減少に伴い役員数を減少したことと、同じ役員が複数の職務を兼務するケースが増えたり、従来の規約ではわづ

かな現役員の中からしか選出できず候補者不足の状態に陥ってしまったためです。この議案は審議の上可決されました。来賓として有村治子参議院議員秘書鶴田様にお越し頂きました。また、講演会には、近畿

大学の田中尚道教授をお招きし、ポリエステル媒地についてのご講演を頂きました。「ポリエステル媒地」とは衣料品などリサイクル繊維を用いた超軽量人工媒地であり、これを用いて様々な作物を育てることができるといふものでした。屋上緑化の植物栽培基盤として実績も多数あり、無菌であることから今後は植物の輸出や宇宙での植物栽培の可能性など、非常に夢のあるご講演を頂きました。最後になりましたが、協

会本部ならびに全国の協会員の皆様今後ともよろしくお願いたします。関西ブロック内圃場視察 (大阪方面) 令和5年8月3日大阪方面視察にて杉田園さん、古川庭園さんの視察を実施しました。杉田園さんでは非常に多くの種類の樹木を栽培されており、また、除草・消毒等の管理を徹底されておりました。古川庭園さんでは雑木はもちろんのこと、聞いたこともないような新しい樹木の取り扱

に積極的に挑戦されておりました。2社園とも土地の特性をうまく活用され、事業展開をされていたのが印象的でした。真鍋庭園苗畑 真鍋庭園の歴史について教えていただきました。真鍋社長有難うございました。2日目は小樽泊。3日目は北海道大学

千歳空港へ、その後十勝七ルズに視察予定でしたが、豪雨のため諦めて十勝温泉に向かい宿泊しました。2日目は、朝から真鍋庭園さんを訪問しました。社内から案内して頂き、園内植物園の視察を行いました。札幌市内にある広大な敷地の植物園を視察しました。ES CON FIELD HOKKAIDOを視察の後、千歳空港から大阪へ飛び関西ブロック北海道研修会は、充実した内容で終了しました。

植物園の視察を行いました。札幌市内にある広大な敷地の植物園を視察しました。ES CON FIELD HOKKAIDOを視察の後、千歳空港から大阪へ飛び関西ブロック北海道研修会は、充実した内容で終了しました。



ES CON FIELD HOKKAIDO



古川庭園様圃場



杉田園様圃場



真鍋庭園苗畑



北海道大学植物園

### 中国・四国ブロック

#### 令和5年度通常総会

ブロック長 内山 淳  
(株)山都屋・岡山県

令和5年11月14日午後2時より広島市「ホテルメルパルク広島」において中国・四国ブロック通常総会を開催しました。第1号議案では、令和5年度事業報告、決算報告の説明、その後監査報告、第2号議案では、令和6年度事業計画案、予

と、次回ブロック総会は四国で実施することで承認されました。その後、田宮横二会員より青年部会のブロック体制の見直しについて報告があり、青年部会に入会する会員が少なく、会員が減少している現状について協会の今後を心配する意見がありました。

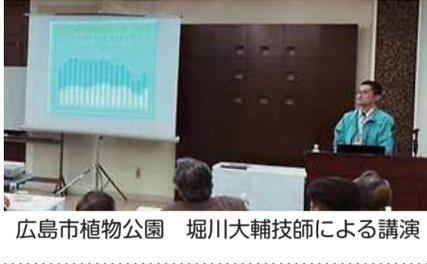
午後3時半より広島市植物園の堀川大輔技師をお迎えして「バオバブの管理について」の講演をしていただきました。同公園には、令和6年度通常総会の講演会で講師をお願いしている植物活動家の四代目金岡又右衛門氏がオーストラリアからの移植を総合プロ

デユースした日本最大のバオバブがあります。会場を同ホテルの隣の部屋に移して午後5時半より懇親会を開催しました。大村秀樹会員の司会により内山ブロック長の開会挨拶にはじめ、協会本部ならびに全国の協会員の皆様、今後ともよろしくお願いたします。

する通常総会に全国からたくさんの方をお招きできるといいなと協力して準備していきたいと思っております。今回お世話になった中国・四国ブロックの会員をはじめ、協会本部ならびに全国の協会員の皆様、今後ともよろしくお願いたします。



通常総会で内山ブロック長挨拶



広島市植物公園 堀川大輔技師による講演

会の下見を兼ねて立食形式で行いましたが、久しぶりに会って話が弾み楽しい時間もあったという間に過ぎ、倉本政信会長の閉会挨拶で懇親会は中締めとなりました。最後に中国・四国ブロックは現在会員数が25名となっていますが、令和6年1月に広島で開催



懇親会の様子

# 九州ブロック

## 令和5年度通常総会開催

(旧)ブロック長 酒見博文

(有)酒見緑化園・大分県

令和5年11月10日金曜日 14時から(一社)日本植木協会九州ブロック令和5年度通常総会を熊本県熊本市のメルパルク熊本で行いましたので報告いたします。

(有)熊本緑化センター遠山氏の司会で進行し佐久協会長挨拶(事務局木谷氏代読)ののち議長に(有)大阿蘇造園後藤氏を選出、第1号議案から4号議案まで可決され、第5号議案役員改選(案)では九州ブロック長にエンザイ緑販(有)福島氏、副ブロック長に(株)峯樹木園峯氏及び大分植木(株)二村氏の2名、事務局に赤司花木園赤司氏が承認され、次年度役員が決定しました。議長解任のち協会本部報告では横浜国際園芸博覧会についてなど今後の協会運営について西郷理事から報告



登録番号	品種名	登録者	登録日	登録種別
09266	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
100	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
101	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
102	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
103	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
104	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
105	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
106	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
107	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
108	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
109	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
110	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
111	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
112	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
113	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
114	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
115	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
116	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
117	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
118	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
119	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類
120	桜花の舞	株式会社 桜花の舞	2019/03/21	桜花類

勝木俊雄先生

人森林総合研究所農学博士 勝木俊雄先生を講師としてお迎えし、記念講演「サクラ属の新規生産可能樹種についての考察」を行いました。勝木先生はクマノザクラの発見及び命名者であり、我々が植物分類を行い生産するまでの過程を詳細に解説していただきました。中でも九州西海岸沿いから南西海岸沿いに自生するツクシヤマザクラについて詳しく解説がありヤマザクラ・オオシマザクラ(イズオオシマザクラ)との違いやツクシヤマザクラの選抜種の有用性、ソメイヨシノの代用種としての利用価値など植木生産者が欲しい情報を惜しげもなく提供して頂きました。

今後間違いなく起るであろう気温の上昇に伴い、開花異常が予想されるソメイヨシノ。関東地方よりも遅い開花の九州南部ですすでに開花異常が起きており、今後サクラ属の植栽樹種提案に開花異常が起きにくい種として定着できるかどうかも含め考察していきたいと思えます。

18時より熊本県支部顧問の参議院議員馬場成志様秘書吉津様・熊本県樹芸農業協同組合中島様・熊本県造園建設業協会福田様・熊本市造園建設業協会吉村様・講師の国立研究法人森林総合研究所勝木様をお迎えし懇親会が盛大に開催されました。

次年度開催地は鹿児島県です。次年度総会も盛大に開催できることを願っております。

### 連載「多肉・珍奇植物」

## 第5回 駄もの扱いされながらも滑稽で哀愁ある姿、オープンチア

東京都市大学環境学部教授 飯島健太郎



◆プロフィール  
東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医工学部准教授を経て現職。博士(農学)。日本造園学会賞/研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書:『新しい都市緑化・ガーデニング材料/多肉植物』(ソフトサイエンス社)、『サボテン大好き』(講談社)、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』(主婦と生活社)、『サボテン全書』(監修、グラフィック社)、『多肉植物全書』(監修、グラフィック社)など。

オープンチア、すなわち団扇サボテンを代表する属名である。杓文字や団扇、はたまたミッキーマウスなど様々なたとえがされるほど特徴的な形態を有し、わが国では民家の軒先に50年を超える樹齢のものが植栽されているケースもあるほか、日南海岸サボテン公園の100万本のウチワサボテンの景観は有名であった。樹齢と表現したが、サボテンは木か草かという議論もある。年輪が存在しないという点では樹木と言えないが、材が取れるという意味では樹木ともいえる。

ビザールプランツとして、積極的に栽培される対象ではないものの、いざその姿を目の前にすると滑稽さと存在感に愛着を感じる人も少なくない。オープンチアは広義には、膨大な種類を含むサボテン科の3亜科のうちの一つウチワサボテン亜科(Opuntioideae)を差し、多数の属が設定されているが、狭義にはその中のオープンチア属を対象とし典型的なウチワサボテンがこの中に含まれる。世界に200種ほどあるとされ、カナダ南部からパタゴニアまでのアメリカ、カリブ海諸島、ガラパゴスに分布するほか、オーストラリア、アフリカ、アジアなどに帰化している。主な用途は食用であり、若い茎の部分はノパル(nopal)と称して、また果実はカクタス・ペアやトゥナ(tuna)と称して、南北アメリカ大陸、地中海沿岸域から中東地域に流通している。ステーキや煮込み料理、ピクルスなどにも活用され、高い栄養価がある。コチニールウチワ(Opuntia cochenillifera)に寄生するカイガラムシからは赤色の染料を得ていた。オープンチアの特徴は茎が多肉化し、節状に連なっていることである。この部分を茎節と称するが、楕円や丸のお盆のようであったり、円筒、球形の立体的な種類もある。樹高が10メートル以上になる高木タイプ、地被植物のごとく地を這うタイプ、大部分が地中に埋もれて頭部だけを地表を表す極小形のタイプなどがあり、アメリカではデザートガーデンのメイン植栽、あるいは緑地のグラウンドカバープランツとして植栽されている。高木タイプは成長とともに茎節部が木質化して幹状に変化する。高木タイプの代表である宝剣(O. ficus-indica 写真①)、単刺団扇(O. monacantha 写真②)など5メートル以上のものが伊豆をはじめとした暖地でしばしば見られるほか、



写真① 宝剣 (Opuntia ficus-indica)



写真② 単刺団扇 (Opuntia monacantha)

日本への渡来は江戸時代初期とされている。古い記録としては、貝原好古の『和蘭雑記(わじが)』(1688)に記されている霸王樹、トウナツがあり、ウチワサボテン属の1種 O. maxima とされている。また草木育種(そうもくそだてぐさ)後編(江戸時代天保7年[1836])には、ウチワサボテンの増殖に関する図解が示されており(写真⑥)、1枚の茎節から多数の個体が得られることを示している。実際には、表裏1か所以上の刺座を残して細かく切り分けると、それぞれから新たな個体が得られる。こうした繁殖力から19世紀にはオーストラリアでは侵略的外来種として大変な事態を引き起こした。土産物で持ち帰ったセンニンサボテン(O. stricta)が鉢から庭へ、そして広く逸出して繁殖した。1870年ニューサウスウェールズ州で牧場や農耕地を荒すと心配されはじめたが、1895年にはクイーンズランド州に広がり、1900年に10,000,000エーカーに広がり、1920年には6千万エーカーとなり、毎年百万エーカーの割合で農耕地や牧場がサボテンに侵略されたという。この事態に軍隊が出動し、火炎放射器で焼き払うものの裏面が生きていたり、戦車で踏みつぶして駆除を試みるが、細切れになった茎節はむしろ増殖を助長してしまうなど政府もお手上げ状態であった。連邦有害ウチワサボテン防除対策委員会が発足して検討が重ねられ、1925年天敵昆虫のメイガの一種(Cactoblastis cactorum)を導入した結果、みるみるウチワサボテンは衰退していったという。方やその栄養価や含水率とともに乾燥地農業の対象としても魅力的であることから、育種家バーバンクによって刺無しウチワサボテン(バーバンクウチワ)が作出されたことは有名である。

話題も豊富で存在感のあるオープンチアだが、ドライガーデンのキセロフィルのなかでも主木、シンボリック的存在として演出効果は抜群である。高木・地被としての植栽とともに開花景観が美しく、場合によれば食糧として、用途多彩なオープンチアを見直しても良い。



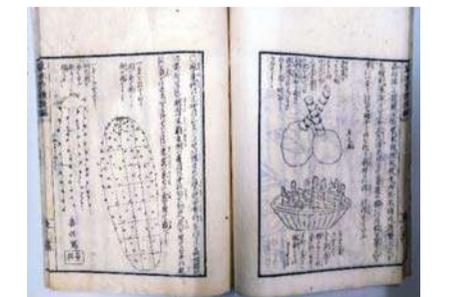
写真③ 円武扇 (Opuntia fumifusa)



写真④ 黄花のナイアガラ (Opuntia sp.)



写真⑤ 赤花の紅花団扇 (Opuntia bergeriana)



写真⑥ 草木育種(そうもくそだてぐさ)後編 [1836](筆者所蔵)、ウチワサボテンの増殖の解説

バーバンクウチワ)が作出されたことは有名である。

ルポ

# 社園さん紹介

## (有)田村山林緑化農園

No.20

秋田県(山本郡)

山林苗(スギ・クロマツ等と広葉樹)とグラウンドカバー苗の2本柱で生産して、今年2月で設立30周年。山林苗は全て実生で地域や環境に合ったものを生産。社長の田村政則さんが山林苗、協会担当の川村和泉さんはグラウンドカバーを主に担当しています。そして、現場を「見て感じる事が大切」という田村さんの「思い」から、従業員さんを積極的に研修に送り続けています。



田村山林緑化農園の皆さん



左から協会担当の川村和泉さん、社長の田村政則さん



最近植物の種類が増え、冬場ハウスに入れた方がよい植物もあるので棚を新設。



露地モノのクロマツ苗木畑



綺麗に整備されたコンテナ圃場

### 会社の設立当初からコンテナ苗を生産する経緯は?

田村さん:「山林苗生産としては45年程ですが、法人にしてからは今年2月で30年です。山林苗だけの生産に迷いを感じていた時期に、研修でグラウンドカバーの生産者を訪問したことがきっかけで、うちも作ってみようと思えました。緑化ブームの流れによって生産量が増えて、その頃に植木協会に入会しました。いつの間にかコンテナ苗が200種以上、ハウスが23棟、従業員さんが30人程となりました。」

### 研修がきっかけでグラウンドカバーを作り始めたのですか?

田村さん:「はい、研修はとでも勉強になります。受け入れ側は大変だと思いますが、参加者側はきれいな圃場を見て刺激になり、「うちもコレやってみよう」と自社で試します。実際、東北地方は寒い気候でグラウンドカバーの産地ではないですが、それでも試行錯誤して現在に至っています。また研修以外にも自ら出歩いていると、見て感じて「感」が働いて「これ作ろう!」と思うものです。」

川村さん:「うちの社長は流行るかなと思うとすぐに作り出すタイプなんです(笑)。でもなかなか引き合いがなくて生産を止めようかと思う頃に、流行り出して引き合いになることが多々ありました」…リサーチ力がすごいんですね。

### 売れ筋を見抜く力はどのやうやって?

田村さん:「それは難しいです。自社の製品数が少ないと流通量から分析は出来ないし、皆さんとコミュニケーションを取らないと分からない部分も多くあります。受け手側になってしまうと分かりません。だから研修に参加するということは、とても貴重なことなのです。今まで私は沢山研修で勉強させていただきましたから、個人的には協会に恩があると思っています。」

### 冬は厳しいから、冬前にハウスにコンテナ苗を移動させるのですか?

川村さん:「もともと耐寒性の植物しか作っていないので、基本的には屋外に置いています。雪の下だから休眠状態です。注文がきたら「ここ掘れわんわん」とばかりに掘っています。みんなで雪一面の圃場に向かって「この辺だったかな?」と、限界はありますが掘っています(笑)。雪の降らない地域の方からは「よく掘るな」と言われますが、私たちには当たり前のことなんです。雪が降る前にどの辺に何の植物があったかと各圃場ごとに在庫場所の地図を描いておきます。ですから冬場の男性陣9人の仕事は、まずは除雪作業です(笑)。」



スギ苗の上まますます積もるようです(R5年12月現在)

### 雪の中の作業は大変ですね。

川村さん:「はい、私達は寒さや雪には慣れていますが、今年の夏のような36度以上の猛暑が2週間続いた方がキツかったです。関東地方と変わらずに暑くて、ハウス内の作業は、体が慣れてないので本当に大変でした。冬は寒いけど夏は涼しいという秋田の良さがなくなってしまいます。」

### 今後の方針等は?

田村さん:「今後も今と変わらず、山林苗とグラウンドカバー苗の2本立てを続けていきたいです。やっとなグラウンドカバーでもそれなりに知名度も出てきましたし、例えどちらかが衰退しても食べていけるよう継続して行きます。あとは、大げさに人材育成という訳ではないですが、若い人にも研修に参加してもらっているので、そういう面も続けていきたいです。」

### 若い従業員さんの募集はどうですか?

川村さん:「有難く、最近は高校の研修で来て、そのまま入社して長く勤めてくれています。うちの受け入れ体制もやっとな変わってきたのかなと思います。このまま定着して欲しいです」…事務所も綺麗ですし若手の活気あるのもいい効果なのだと感じました。」

### 山林苗の生産量も多いですね。

川村さん:「はい。秋田県は国有林が多く、民有林、個人所有の山もありますが、国有林スギ人口林の面積が全国1位です。国策で50年前にスギ苗を全国的に植林したので、当時植林した杉を伐採する次期は現在がピークです。ですから、今は伐採後に新たに植林するスギ苗の需要が多く、何年先にどれだけ必要になるか需要と予算がある程度予測出来るので、それに合わせて全て実生からスギ苗を作っています。最近は国が推奨している少花粉スギ苗の需要も増えてきました。」



出荷前の大量のスギ苗 12月の圃場(左写真と同じ場所)

### 若手従業員さんにお聞きしました。



左から山田誠也さん、小林真人さん(後日、リモートでインタビュー)

### 小林さんは、直近でコンテナ部会の研修に2年間行かれたそうですね。

小林さん:「はい。北海道の研修では、先が見えないほどのカラマツ苗木畑を見て圧倒されました。作業内容や仕事のやり方を研修に、自社との違いに気づかされたのは大きかったです。自社で取り入れられる部分は参考にしたいです。また、夜は一緒に飲んで交流が深まりました(笑)。研修に行けてよかったです。」

### 若いお二人から会社のいい所を教えてください。

小林さん:「それはダイレクトに社長や上司に声を挙げられることです! “こうしたい”とか、“どうしたらいいか?”と直接言うって話合っってすぐに解決に繋がります」と、即答で会社のいい所を答えてくれました。」

### 今はどんな作業をしているのですか?(11月取材時)

山田さん:「これは秋田県の太平山等に植樹する苗木を選別しています。山ではこの白い袋を背負って、苗木をそのまま土の穴に植樹しますから、根が崩れていると地面の穴に入れにくいので、ポットに根がきちんと張っている苗木を選別して出荷準備をしています。」



根がしっかりと張っている少花粉スギ苗



“お米を抱えているのと同じよ!”と、笑わせてくれた女性の従業員さんたち。



ココナツビートやヤシガラを使用した自社ブランド土。



根が詰まっている苗の株分け作業中。「坂本さん(左から3人目)は手先が器用で上手なんです(笑)」ベテラン組と若手組が和やかに作業している風景が印象的でした。

### こちらに就職したきっかけは?

北林さん:「事務をしている叔母に誘われたのがきっかけで、入社14年程になります。パソコン作業より出荷作業が思った以上に私に向いているように思いました。会社の居心地もとても良いですし、年配の方々にはよく面倒を見てもらっています。」

### どんな仕事をしているのですか?

北林さん:「現場と上司の川村の中継役で、出荷の準備や箱詰めと各圃場毎の出荷数の確認などを行っています。多い時は一日に何千もの出荷があるので、運送会社で一度に搬送できない場合は小分けにします。植物の種類も多いですし規格もあるので細かく川村に聞いて貰えました」…普段は甘いものや美味しいものを食べに行くことが好きだそうです。楽しく頑張ってください。」



17時になると皆さんが戻るきれいなオフィス